

## 横架材、柱材、羽柄材の各ラインを刷新

株山本進重郎商店



株山本進重郎商店（事務所の左側が第一工場）

和歌山県北西部の港湾エリアに位置する株山本進重郎商店（和歌山県和歌山市、山本進三社長）は大阪南部エリアを中心に京都や和歌山にプレカット材の供給を行っている。

同社の創業は大正11年で今年96周年を迎える。創業当時は製品を卸売する木材業を営んでいたが、昭和10年より製材業、昭和30年には原木の輸入を開始。昭和50年代には製材業を終了し、前後して建材流通業を開始した。また、同時期に不動産業やレジャー産業などに進出し、事業の多角化を図っていった。

同社がプレカット事業部を設立したのは平成7年で、ちょうど在来工法におけるプレカットの普及率が30%を超えた成長期のころ。需要が落ち込んでいた原木の輸入をストップすると同時に、木材の付加価値を高めるプレカットを導入し、同社の基幹事業とした。なお、同社では最初期のころから現在まで、一般住宅向けのプレカット材の生産をメインに行っている。ま

た、同社は和歌山県内を中心に、ゴルフ練習場・バッティングセンター・フットサルクラブなどのレジャー関連施設、スーパー銭湯、訪問看護ステーションなど他の事業も展開しており、企業全体の売上の50%以上を占めるプレカット事業のリスクヘッジとしても機能している。

### 入替でランニングコストを大幅削減

同社が新たな加工機を導入したのは2017年12月中旬。プレカット事業部がスタートした当時から使い続けてきた既存の横架材加工機と柱材加工機、羽柄材加工機では、老朽化による維持管理コストの上昇や生産能力の不足などが課題となっていたほか、消費増税前の駆け込み需要への対応も検討していた。そこで、2013年に導入した宮川工機製の横架材多種加工機と合板加工機が、省エネ性や加工精度、使い勝手が良